

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301249		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	守山ケアハートガーデン グループホーム つづみの丘		
所在地	愛知県名古屋守山区百合が丘3005番地		
自己評価作成日	平成22年9月27日	評価結果市町村受理日	平成23年1月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9F		
訪問調査日	平成22年10月26日	評価確定日	平成22年11月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「ずっと笑顔につつまれて、心に届くぬくもり」の実現に向け、スタッフ一同ご入居者からより一層の笑顔を引き出すために、できることから少しずつ日々の努力を積み重ねています。今年度の重点取り組み事項は以下の2点です。「スタッフ研修の充実とスタッフからの提案の出来る限りの運営への反映」(スタッフが楽しく働くことができないければ、ご入居者の笑顔を引き出すことはできないと考えます。)  
「自治会や近隣介護施設との連携」(地域の方との密接なつながりが、ご入居者の生活に楽しみを提供するだけでなく、安全・安心な生活につながると思います。)形となって成果が見えるようになるまでにはまだまだ時間がかかるとは思いますが、日々成長し続ける施設を目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営会社のバックアップ体制が整っており、役割分担が明確なため、管理者は管理業務、職員はケアに集中することができ、働きやすい環境をつくりあげている。また、研修は業務として扱われ、残業についての処遇も含め労働条件が整っている。職員は「笑顔」でケアに取り組んでおり、明るく気さくでチームワークも良い。入居者一人ひとりの思いや希望を知るために国が推奨するセンター方式を導入したり、その把握や実現のために全職員で取り組み、入居者一人ひとりが望む生活やその人らしい生活ができるよう努めている。排泄支援に力を入れており、その人にあった援助を心がけた結果オムツを使用している人はいない。ケアのいたるところにその人にあった援助を感じることができ、理念が職員に浸透し実践されていることがうかがえる。地域との関係は施設長が地道に声をかけ、職員全員で取り組み大切にする事で輪がひろがり、協力を得られる関係ができており、今後のさらなる発展が期待される。

### サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ずっと笑顔につつまれて、心に届くぬくもりを」を理念とし、ご入居者が生活の中で自然と「笑顔」になれ、地域の中で自分らしく暮らし続けることができるような支援をしている。実際の変更までには至っていないが、事業所独自の副題もスタッフ全員で検討し、変更へ向けて調整を進めている。	新任者の研修や定期的に行われる研修を通して、理念の共有や理解を深めている。ホームが目指していること、そのために今行っていることなどを職員一人ひとりが意識することで、日常的に話し合う機会が自然とできてきている。笑顔を大切にしたいという思いは職員にも浸透しており、日々のケアに反映されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩時の近隣の方々との挨拶や会話、自治会のゴミ当番や子供110番への協力、地域のイベントへの参加、地域の学校や保育園との交流、ホームのイベント時における近隣の皆様への参加の呼びかけ等、交流に努めている。	住宅地の中にあり、地域のゴミ当番では入居者も参加して分別を行っている。コミュニティーセンターで定期的に催されるふれあい広場には、毎回数名ずつの入居者が参加して交流を楽しんでいる。また、地域の保育園や中学校との交流も定着しており、子ども達とのふれあいを入居者はとても喜び楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職業訓練生や地域の中学校の職場体験などの受け入れを行っている。また新興住宅街ならではの子供と高齢者がふれあう機会として、近隣保育園と世代間交流も行っている。同一法人と協力して地域に向けた認知症勉強会の開催を企画し地域貢献に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様には、会議だけではなくイベント時などにもホームにお招きすることで、ご入居者の日常生活の様子を理解していただいております。意見が言いやすい内容のある会議になっている。また、昨年度の外部評価でご家族より頂いた意見を議題とし、返答や改善策を話し合うことで今年度の運営に活かしている。	行政を除き、多種多様なメンバーが会議に出席しており、今年から現場の職員も参加するようになった。直接、意見を聞くことで職員の意識の向上にも繋がっている。メンバーからはアドバイスなど意見が積極的に出ており、運営に活かしている。来年は、地域包括支援センターの職員の参加も予定しているなど、地域に開かれたホームを目指し取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営者において専門の担当者を配置し、市町村への報告、連絡、相談を密に行っている。また市長村からの新たな提案や協力依頼があった際には、積極的に参加、協力を検討している。市主催のセミナーに参加したり、各種セミナーへの参加を奨励している。	運営会社において行政の担当窓口となる担当者が配置されている。ホームの状況報告や市からの情報を取り入れるなど、ホームを理解してもらい相談や支援が得られるような関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各種セミナーへの参加を奨励している。やむを得ず拘束に該当する行為を行う場合は、必ずご家族(必要に応じ医師)に報告、相談を行い、カンファレンスで期間や改善策を話し合い慢性化しないよう取り組んでいる。	夜間において転倒の危険がある入居者に関しては、家族に説明し、同意を得てベッドに柵2点をつける対応を行った。その際には、職員間で話し合い、家族への説明や経過記録等が具体的に記録に残されていた。施設内研修の中にも身体拘束や虐待について組み込まれており、共通認識として職員に深まっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種セミナーへの参加を奨励している。また普段より傷、痣が無いかに特に注意を行い、カンファレンスなどで話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催のセミナーに参加したり、各種セミナーの参加を奨励している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんの事、入居後においても普段よりご家族に対し報告、連絡、相談を心掛けている。退居時(解約時)においては、誤解が生じないように十分な配慮をしている。また、ご家族からの疑問などについては、迅速な対応を心掛けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者は直接実務には携わらないが、ホームに頻繁に顔を出すことで、ご入居者より十分な信頼を得ており、職員に直接言いにくい不満や意見を言いやすい環境となっている。管理者、職員はご入居者の不満や意見を個々に傾聴する時間の確保に努めている。	外部評価における家族アンケートについて、家族からの意見に対して管理者が返答や状況等、文書で報告している。家族から出た要望等については、申し送りに記録され実行されている。運営会社の担当者がホームを頻繁に訪問しており、入居者と職員、家族と職員の関係において橋渡しの役割を担っている。	家族から出た意見や要望などに対して、ホームで対応したことについても記録に残されることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会(広報・食材・レクリエーション・備品)を設置し、職員が担当する事で、運営者との情報交換の機会をつくっている。スタッフの意見を運営に反映し、運営意識の向上につなげるため、スタッフに運営推進会議への参加や業務改善提案書の提出を促している。	運営者や管理者は職員の意見や提案には常に耳を傾け、業務改善に積極的に取り組んでいる。運営者との面談、管理者との面談も実施しており、コミュニケーションを大切にしている。職員同士の行事も多く、交流の機会が設けられている。残業や研修、資格取得報奨金制度など処遇面に関しても整えられており、働きやすい環境が整備されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は頻繁にホームへ出向き、職員の勤務状況、態度、能力、適正を把握するように努めている。また運営者において資格取得報奨金制度を設け、取得者に報奨金を支給している。新たにOJTの具体的内容の検討やスキルマップの作成も始めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、リーダー、職員、新人など各レベルに合わせた法人内研修や外部講師を招いての研修会の開催を行っている。事業所単独でも内部研修を年間計画に入れ込み計画性を持った育成を試みている。また、日頃からの情報の共有化や情報の水平展開強化のために、朝礼などの導入を行った。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護施設との関係構築に努め、お互いの管理者(代表者)が定期的な打ち合わせを行い連携の進め方や合同イベントなどの企画を立てている。イベント時の相互訪問や緊急時に連携ができるシステムの構築に向けて取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の生活の場へ出向き、事前面談を実施し、その後お試し入居を行い契約となる。アセスメントにはセンター方式(ホーム用、ご家族用)を導入することで、適切な支援を行うための情報確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談スペースを確保しており、入居申し込み時(初回相談時)には、可能な限り管理者に加え運営者も同席し、ご家族から十分に話を聞くことで、安心感を持って頂けるように対応している。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は入居申し込みに至らない場合でも、在宅介護における負担軽減に向けたサービスの利用方法や、必要に応じて事業所の紹介をしている。当ホームでの受け入れが困難な場合は、受け入れ可能と思われる施設の紹介など、普段より施設間のネットワーク作りに努めている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰介護ではなく、出来ない事への支援をすることを念頭に、寄り添う介護を目指し実践している。職員も共同生活の一員として食事を一緒に食べ、ご入居者から優しい言葉や労いの言葉を頂くなど、職員がご入居者に癒されている事も多く、自然体で支えあいが出来ている。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族による手芸教室や様々な提案を頂く関係作りが出来ている。ホームから毎月ご家族宛の“たより”を発行したり、イベントに参加を促したりと、ご家族が精神的な支えとして、自然な形でご入居者を支えていただけのような情報提供に努めている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、本人の故郷にご家族と一緒に帰郷する機会をつくったり、馴染みな方との外出や日常的に電話をかける支援を積極的にしている。また、ご家族に対しては、身内の冠婚葬祭への積極的な参加をお願いしている。	ホームでは、入居者と家族、親族との繋がりをとても大切にしており、冠婚葬祭等には入居者の参加をお願いしている。また、友人や知人等に自由に来訪してもらえよう、家庭的な雰囲気大切に支援を行い、関係が継続していくよう取り組んでいる。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご入居者の個々の性格、認知症のレベルの把握に努め、ご入居者同士の会話や付き合いが良好な時は見守り、不調の兆しうかがえる際は仲裁する等、ご入居者の暮らしに影響が出ないような配慮をしている。			
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には、ご家族と共に他施設を探す支援を行っている。また、在宅復帰の際に、担当ケアマネジャーへの情報提供やその後のご本人の状況確認等を行い、退居時相談援助加算を頂いた事例もある。死去された場合はご葬儀に参列させて頂いている。			
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご入居者の思いや尊厳を第一に考えている。積極的にセンター方式の導入を行い、思いや希望の把握に努めている。また、ご入居者の一つ一つの言動に関心をよせるように心掛けている。	利用開始時に、本人や家族が、ホームでどのように暮らしたいのかの希望や意向を知るためにセンター方式(情報収集の方法)を活用している。職員は入居者にその人らしい生活を送ってもらいたいと、本人の言うことに耳を傾け、本人にとって何がよいのかを常に考えている。職員は笑顔で入居者に優しく話かけ、丁寧に聴いている姿が訪問時にも確認できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前面談を実施する事で、十分なアセスメントを行っている。その際、ご家族にもセンター方式シートの記入に協力を頂き、情報の把握に努めている。また、日々の生活の中で知りえた情報を職員間で共有するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書や毎月行われる全員参加のカンファレンスで、「課題」「困っている事が起きる場面」「対応方法」「望まれる介護方法」等の情報を共有している。また、日常からセンター方式を活用し、感情の変化等の把握にも努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者の気持ちを読み取ることを中心に、ご家族から得た情報、職員間のコミュニケーションでの気づき等をまとめた担当者からの報告書を元に、毎月のカンファレンスにおいて、その人らしさ、個別ケアについて職員全員で話し合い、介護計画を作成している。	センター方式とは、より質の高い認知症ケアを提供するためのケアマネジメントであり、本人の視点にたつてつくられ、本人を24時間捉えていくものである。講師を招き研修を受けるなど、本人の意思や希望、暮らしやすさなどを旨とし職員で取り組んでいる。毎月行われるケア会議では、担当者が気づき等を報告しているが、他の職員からも意見が出され、介護計画に反映しており、チームケアが実践されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録(生活記録)および申し送り書への記入を行うことで、情報の共有化を図っている。また、ご本人の状態によりセンター方式を取り入れることで、より詳細な情報の収集に努めている。集約された情報はカンファレンスで話し合い、介護計画に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の希望を出来る限り実現するためにも、通院介助、外出・外食・外泊等に対応している。ご家族、協力医療機関、運営者の協力の下、深夜に見取りを行った事もある。また、ご家族の費用負担の軽減などにも配慮し、排泄用品など安価で購入できる業者との取引も開始する等の柔軟な対応を心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や中学校、地域介護施設と定期的な交流をすするとともに、民生委員の方からの紹介により、地域のふれあい広場(交流会)にも参加をしている。また、ホーム内イベント時のボランティアによる公演協力や、所轄消防署のご協力の下での通報訓練の実施等、地域との関係の構築に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合や、専門的な治療が必要な疾患を保有する場合を除き、ご家族同意の下、協力医療機関の医師を主治医とさせて頂いている。協力医療機関の医師には定期的に往診をして頂いている。ご家族が希望される場合は協力医療機関以外への通院対応も行っている。	入居者、家族の同意の下、協力医が主治医となっている。毎週金曜日に往診を受け、訪問看護も毎週月曜日になり、連絡ノートを使い健康管理に努めるなど、医療機関との連携を図っている。他のかかりつけ医への受診は職員が通院介助を行っている。家族も医療面について安心されていることがうかがえる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションには、1週間に1回ご入居者の健康管理をして頂くことで、ご入居者と馴染みの関係が出来ており、また、職員とは医療面の相談窓口として信頼関係が出来ている。訪問看護ステーションには、主治医と密に連携を図って頂いており、的確な医療支援につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時お見舞いに伺い、ご本人の状態の把握に努めつつ、ご入居者のメンタル面の支援を行っている。主治医の往診体制や訪問看護ステーションとの協力により、受入条件の幅が広がり、早期退院に向けての相談に応じることが出来るようになりつつある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係わる指針」を定め、ご家族より同意を得ている。また、早期からご家族に報告、連絡を密に行うことで、ケア方法について誤解が生じないように努めている。終末期に具体的な対応方法について、ご家族に都度確認、同意をとりつつ、主治医、訪問看護ステーションの協力の下、看取りを行ったこともある。	「重度化した場合における対応に係る指針」を定め、入居時に同意を得ている。医師、看護師、家族、他の入居者、職員等チームとして全体で頑張る看取りに取り組まれた経験をもっている。本人や家族の意向を踏まえ、医療機関と連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時本人、家族の意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営者が立てる計画に基づき、定期的に職員全員が所轄消防局が開催する普通救命講習を受講している。自施設には設置していないAED等の救命具を近隣介護施設から貸与させて頂く流れをつくり、緊急時の体勢整備を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をご入居者と共に実施している。災害時に協力が得られるように、地域住民の方への働きかけを継続して行い、設備として避難用のヘルメットや3日分の非常食を備蓄している。自治会長の協力の下、避難経路・災害用設備を一つずつ確認し、簡単ではあるが防火設備マップを作成した。	11月に各室スプリンクラーの取り付け工事をする。年2回避難訓練を入居者と実施し、また、近隣介護施設とも緊急時におけるAED(心臓救命装置)の貸与など協力関係にある。各ユニットにヘルメットが常設され、備蓄品は3日分準備している。自治会の協力で「緊急時応援体制チャート」と「防火・消化用設備マップ」も作成している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切に、常に礼儀を忘れずに対応をしている。特に入浴、排泄時にはプライバシーに配慮し、記録類については鍵の掛かる場所に保管している。個人情報については職員に守秘義務を定めた同意書の提出を義務付けている。	援助が必要な時の声かけは、さりげないケアを心がけて注意をはらっている。入居者に接する時は、笑顔で丁寧に対応している。個人情報の取り扱いやプライバシー保護についての研修を行い、入居者に不快な思いをさせないよう努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を通じ、ご入居者の希望、趣味、嗜好の把握に努め、晩酌やカラオケ、外出などに対応している。買い物の際には、ご入居者が自己決定をしやすいように、適宜コミュニケーションを図り支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何かしたい」「どこかに行きたい」等の希望に応えられるように、可能な限り時間調整を行い、希望に添えるように努めている。また、ゆっくり過ごしたい方に対しては、無理強いを行うことなく生活していただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にブラシや髭剃り等を置き、さりげない声掛けでおしゃれが出来るように支援している。また訪問美容を利用し、ご本人の好みに合わせてカット等をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材料取引先の管理栄養士に、1日1500kcaの基本メニューを作って頂いている。水曜日は自由メニューの日として、食べたい物や旬の食材を取り入れた料理を作ったり、外食をしたりしている。職員も一緒に食事をすることで、家庭的な雰囲気をつくり、配膳・下膳についてはご入居者も一緒に行っている。	献立や食材は業者に依頼している。水曜日は自由メニューで入居者の希望を聞いて決めている。入居者と職員がテーブルを囲んで食事をとり、お酒の好きな方も自分のペースで楽しまれている。作業を一緒に行うことは少ないが、片付け等は入居者が進んで行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量および水分摂取回数を、ご入居者個別に記録を取り管理している。また、主治医の指示等、必要と認められるご入居者には、水分量やカロリーの制限を行っている。食器の大きさに工夫をすることで、多く見える(同じ量に見える)工夫をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や、できる事・出来ない事を把握し、個別支援を心掛けている。義歯の消毒、洗浄に加え、歯ブラシやコップも週に1回消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導や失禁の対応を、他のご入居者に気付かれないように配慮しながら行っている。また、必要に応じてチェック表の活用し、ご入居者個々の排泄状況の把握に努めることで、可能な限りおむつを使用しない生活に向けた支援をしている。	排泄の自立は特に力を入れて支援している。チェック表を活用することで、個々の状況を把握しオムツを使用しないですむように取り組んでいる。また、失敗することの無いように本人の意思を確認しながら、声かけや前誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操による運動に加え、食事に乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れることで、自然な排泄を促している。やむを得ず下剤などを使用する際は、主治医の指示の下で行い、ご入居者の状態により調節している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	数種類の入浴剤を使用したり、介助を要さないご入居者は、浴室の外で見守りを行うことで、気持ちよく入浴ができるように配慮をしている。また、自宅での習慣を大切に、入浴中に下着を洗われたり、水浴びをされるご入居者もみえる。	基本的に1日おきの午後に入浴している。毎日健康チェックを行い、また、体重も毎月測っている。入浴介助の際に、羞恥心ある方には、本人から声かけがあるのを待ち、それまでは浴室外で見守り、声がかかると介助に入っている。仲のよい方が一緒に入ったり、長湯などを好まれる方は見守りを行い、本人のペースに合わせて支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者が気持ちよく休息をとることで、生活リズムが出来るように、窓の開閉やエアコンの調整による室温管理、布団干し、シーツ交換を適宜行っている。また、外出や入浴後には、水分を多めに摂って頂くように気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご入居者個々の薬の内容や目的を理解するように努め、最大限の注意を払い服薬支援を行っている。また、些細なミスでも「ひやり・はっと」の報告を行うことで、支援方法の改善につなげている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に直接伺ったり、センター方式を用いることで、ご入居者の情報の把握に努めている。毎週月曜日をレクリエーション等を行う日とし、楽しみごとを一つでも増やす努力をしている。また、ルールを定めることで、タバコ等嗜好品も楽しんで頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症や猛暑の影響により、ご入居者の下肢筋力の低下がうかがえ日常的な外出支援が思うように行えていない状態であるが、日々の日光浴、ご家族との外出、イベントによる外出は継続して行っていく。	庭で野菜作りや外気浴をしたり、日々の散歩で隣の公園で小さい子ども達と交流して楽しまれている。ホーム内には、外出時の写真が飾られており、入居者の楽しそうな様子がうかがえる。家族と買い物に出かけたり、冠婚葬祭の出席などは積極的に支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が可能なご入居者には、ご自身で財布を管理して頂き支払いを行ってもらっている。自己管理が困難な方でも、買いたい物を選び支払いに関する支援をする事で不安を取り除き、自信に繋げている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話を希望される方には、必要場合は職員が事前に確認をとり、先方と調整しながら支援をしている。また認知症の進行がみられる方にはや不安軽減のため、やむを得ず回線の繋がっていない電話を渡し対応を行うこともある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者のニーズによってフロアー照明の増設を行ったり、ご入居者、職員手作りの季節感のある掲示物や、ご家族了解の上で写真を飾ったりしている。外の花壇には四季折々の花などを、ご入居者が中心となって植えている。	静かな新興住宅街にあり、ホームは広く明るい。入居者が使用する出入口は、全て引き戸になっており静かで、やさしく開閉できる。上がり框も無く、ホーム内はバリアフリーである。入居者はソファでテレビを観たり、食堂で作業したり、おしゃべりをするなど自分のペースで楽しまれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには共用のソファや椅子があり、ご入居者が思い思いの場所で過ごされている。またニーズに合わせて柔軟な対応を心掛けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフからの提案により、近隣の花屋と連携し生花をお値打ちに提供して頂き、月1~2回ご入居者がフラワーアレンジを行い居室や共用空間に飾っていただくことで季節感や湿度の確保、居心地の良い空間づくりにつなげている。今後もスタッフからの一方的な提供ではなく、ご入居者が自ら住環境を整えることができる支援をしていきたい。	居室にはそれぞれ好きな物が持ち込まれ、これまでの生活がしのばれる。広い物入れがあり、整理されていて居心地よい居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部に面した扉が多く、ご入居者が自室やトイレの場所を認識しにくいいため、目線の高さに表示をしたり、室名札にご入居者の写真を入れたりしている。また、ご入居者の日常生活の自立のために、手すりの増設も行った。		



### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	
事業所名	
所在地	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ずっと笑顔につつまれて、心に届くぬくもり」を理念とし、ご入居者が生活の中で自然と「笑顔」になれ、地域の中で自分らしく暮らし続けることができるような支援をしている。実際の変更までには至っていないが、事業所独自の副題もスタッフ全員で検討し、変更へ向けて調整を進めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩時の近隣の方々との挨拶や会話、自治会のゴミ当番や子供110番への協力、地域のイベントへの参加、地域の学校や保育園との交流、ホームのイベント時における近隣の皆様への参加の呼びかけ等、交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職業訓練生や地域の中学校の職場体験などの受け入れを行っている。また新興住宅街ならではの子供と高齢者がふれあう機会として、近隣保育園と世代間交流も行っている。同一法人と協力して地域に向けた認知症勉強会の開催を企画し地域貢献に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様には、会議だけではなくイベント時などにもホームにお招きすることで、ご入居者の日常生活の様子を理解していただき、意見が言いやすい内容のある会議になっている。また、昨年度の外部評価でご家族より頂いた意見を議題とし、返答や改善策を話し合うことで今年度の運営に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営者において専門の担当者を配置し、市町村への報告、連絡、相談を密に行っている。また市長村からの新たな提案や協力依頼があった際には、積極的に参加、協力を検討している。市主催のセミナーに参加したり、各種セミナーへの参加を奨励している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各種セミナーへの参加を奨励している。やむを得ず拘束に該当する行為を行う場合は、必ずご家族(必要に応じ医師)に報告、相談を行い、カンファレンスで期間や改善策を話し合い慢性化しないよう取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種セミナーへの参加を奨励している。また普段より傷、痣が無いかに特に注意を行い、カンファレンスなどで話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催のセミナーに参加したり、各種セミナーの参加を奨励している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんの事、入居後においても普段よりご家族に対し報告、連絡、相談を心掛けている。退居時(解約時)においては、誤解が生じないように十分な配慮をしている。また、ご家族からの疑問などについては、迅速な対応を心掛けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者は直接実務には携わらないが、ホームに頻繁に顔を出すことで、ご入居者より十分な信頼を得ており、職員に直接言いにくい不満や意見を言いやすい環境となっている。管理者、職員はご入居者の不満や意見を個々に傾聴する時間の確保に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会(広報・食材・レクリエーション・備品)を設置し、職員が担当する事で、運営者との情報交換の機会をつくっている。スタッフの意見を運営に反映し、運営意識の向上につなげるため、スタッフに運営推進会議への参加や業務改善提案書の提出を促している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は頻繁にホームへ出向き、職員の勤務状況、態度、能力、適正を把握するように努めている。また運営者において資格取得報奨金制度を設け、取得者に報奨金を支給している。新たにOJTの具体的内容の検討やスキルマップの作成も始めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、リーダー、職員、新人など各レベルに合わせた法人内研修や外部講師を招いての研修会の開催を行っている。事業所単独でも内部研修を年間計画に入れ込み計画性を持った育成を試みている。また、日頃からの情報の共有化や情報の水平展開強化のために、朝礼などの導入を行った。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護施設との関係構築に努め、お互いの管理者(代表者)が定期的な打ち合わせを行い連携の進め方や合同イベントなどの企画を立てている。イベント時の相互訪問や緊急時に連携ができるシステムの構築に向けて取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の生活の場へ出向き、事前面談を実施し、その後お試し入居を行い契約となる。アセスメントにはセンター方式(ホーム用、ご家族用)を導入することで、適切な支援を行うための情報確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談スペースを確保しており、入居申し込み時(初回相談時)には、可能な限り管理者に加え運営者も同席し、ご家族から十分に話を聞くことで、安心感を持って頂けるように対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は入居申し込みに至らない場合でも、在宅介護における負担軽減に向けたサービスの利用方法や、必要に応じて事業所の紹介をしている。当ホームでの受け入れが困難な場合は、受け入れ可能と思われる施設の紹介など、普段より施設間のネットワーク作りに努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰介護ではなく、出来ない事への支援をすることを念頭に、寄り添う介護を目指し実践している。職員も共同生活の一員として食事を一緒に食べ、ご入居者から優しい言葉や労いの言葉を頂くなど、職員がご入居者に癒されている事も多く、自然体で支えあいが出来ている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族による手芸教室や様々な提案を頂く関係作りが出来ている。ホームから毎月ご家族宛の“たより”を発行したり、イベントに参加を促したりと、ご家族が精神的な支えとして、自然な形でご入居者を支えていただけのような情報提供に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、本人の故郷にご家族と一緒に帰郷する機会をつくったり、馴染みな方との外出や日常的に電話をかける支援を積極的にしている。また、ご家族に対しては、身内の冠婚葬祭への積極的な参加をお願いしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご入居者の個々の性格、認知症のレベルの把握に努め、ご入居者同士の会話や付き合いが良好な時は見守り、不調の兆しがかがえる際は仲裁する等、ご入居者の暮らしに影響が出ないような配慮をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には、ご家族と共に他施設を探す支援を行っている。また、在宅復帰の際に、担当ケアマネジャーへの情報提供やその後のご本人の状況確認等を行い、退居時相談援助加算を頂いた事例もある。死去された場合はご葬儀に参列させて頂いている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご入居者の思いや尊厳を第一に考えている。積極的にセンター方式の導入を行い、思いや希望の把握に努めている。また、ご入居者の一つ一つの言動に関心をよせるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前面談を実施する事で、十分なアセスメントを行っている。その際、ご家族にもセンター方式シートの記入に協力を頂き、情報の把握に努めている。また、日々の生活の中で知りえた情報を職員間で共有するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書や毎月行われる全員参加のカンファレンスで、「課題」「困っている事が起きる場面」「対応方法」「望まれる介護方法」等の情報を共有している。また、日常からセンター方式を活用し、感情の変化等の把握にも努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者の気持ちを読み取ることを中心に、ご家族から得た情報、職員間のコミュニケーションでの気づき等をまとめた担当者からの報告書を元に、毎月のカンファレンスにおいて、その人らしさ、個別ケアについて職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録(生活記録)および申し送り書への記入を行うことで、情報の共有化を図っている。また、ご本人の状態によりセンター方式を取り入れることで、より詳細な情報の収集に努めている。集約された情報はカンファレンスで話し合い、介護計画に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の希望を出来る限り実現するためにも、通院介助、外出・外食・外泊等に対応している。ご家族、協力医療機関、運営者の協力の下、深夜に見取りを行った事もある。また、ご家族の費用負担の軽減などにも配慮し、排泄用品など安価で購入できる業者との取引も開始する等の柔軟な対応を心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や中学校、地域介護施設と定期的な交流をするとともに、民生委員の方からの紹介により、地域のふれあい広場(交流会)にも参加をしている。また、ホーム内イベント時のボランティアによる公演協力や、所轄消防署のご協力の下での通報訓練の実施等、地域との関係の構築に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合や、専門的な治療が必要な疾患を保有する場合を除き、ご家族同意の下、協力医療機関の医師を主治医とさせて頂いている。協力医療機関の医師には定期的に往診をして頂いている。ご家族が希望される場合は協力医療機関以外への通院対応も行っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションには、1週間に1回ご入居者の健康管理をして頂くことで、ご入居者と馴染みの関係が出来ており、また、職員とは医療面の相談窓口として信頼関係が出来ている。訪問看護ステーションには、主治医と密に連携を図って頂いており、的確な医療支援につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時お見舞いに伺い、ご本人の状態の把握に努めつつ、ご入居者のメンタル面の支援を行っている。主治医の住診体制や訪問看護ステーションとの協力により、受入条件の幅が広がり、早期退院に向けての相談に応じることが出来るようになりつつある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係わる指針」を定め、ご家族より同意を得ている。また、早期からご家族に報告、連絡を密に行うことで、ケア方法について誤解が生じないように努めている。終末期に具体的対応方法について、ご家族に都度確認、同意をとりつつ、主治医、訪問看護ステーションの協力に下、看取りを行ったこともある。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営者が立てる計画に基づき、定期的に職員全員が所轄消防局が開催する普通救命講習を受講している。自施設には設置していないAED等の救命具を近隣介護施設から貸与させて頂く流れをつくり、緊急時の体勢整備を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をご入居者と共に実施している。災害時に協力が得られるように、地域住民の方への働きかけを継続して行い、設備として避難用のヘルメットや3日分の非常食を備蓄している。自治会長の協力の下、避難経路・災害用設備を一つずつ確認し、簡単ではあるが防火設備マップを作成した。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切に、常に礼儀を忘れずに対応をしている。特に入浴、排泄時にはプライバシーに配慮し、記録類については鍵の掛かる場所に保管している。個人情報については職員に守秘義務を定めた同意書の提出を義務付けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を通じ、ご入居者の希望、趣味、嗜好の把握に努め、晩酌やカラオケ、外出などに対応している。買い物の際には、ご入居者が自己決定をしやすいように、適宜コミュニケーションを図り支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何かしたい」「どこかに行きたい」等の希望に応えられるように、可能な限り時間調整を行い、希望に添えるように努めている。また、ゆっくり過ごしたい方に対しては、無理強いを行うことなく生活していただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にブラシや髭剃り等を置き、さりげない声掛けでおしゃれが出来るように支援している。また訪問美容を利用し、ご本人の好みに合わせてカット等をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材料取引先の管理栄養士に、1日1500kcaの基本メニューを作って頂いている。水曜日は自由メニューの日として、食べたい物や旬の食材を取り入れた料理を作ったり、外食をしたりしている。職員も一緒に食事をすることで、家庭的な雰囲気をつくり、配膳・下膳についてはご入居者も一緒に行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量および水分摂取回数を、ご入居者個別に記録を取り管理している。また、主治医の指示等、必要と認められるご入居者には、水分量やカロリーの制限を行っている。食器の大きさに工夫をすることで、多く見える(同じ量に見える)工夫をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や、できる事・出来ない事を把握し、個別支援を心掛けている。義歯の消毒、洗浄に加え、歯ブラシやコップも週に1回消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導や失禁の対応を、他のご入居者に気付かれないように配慮しながら行っている。また、必要に応じてチェック表の活用し、ご入居者個々の排泄状況の把握に努めることで、可能な限りおむつを使用しない生活に向けた支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操による運動に加え、食事に乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れることで、自然な排泄を促している。やむを得ず下剤などを使用する際は、主治医の指示の下で行い、ご入居者の状態により調節している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	数種類の入浴剤を使用したり、介助を要さないご入居者は、浴室の外で見守りを行うことで、気持ち良く入浴ができるように配慮をしている。また、自宅での習慣を大切に、入浴中に下着を洗われたり、水浴びをされるご入居者もみえる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者が気持ちよく休息をとることで、生活にリズムが出来るように、窓の開閉やエアコンの調整による室温管理、布団干し、シーツ交換を適宜行っている。また、外出や入浴後には、水分を多めに摂って頂くように気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご入居者個々の薬の内容や目的を理解するように努め、最大限の注意を払い服薬支援を行っている。また、些細なミスでも「ひやり・はっと」の報告を行うことで、支援方法の改善につなげている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に直接伺ったり、センター方式を用いることで、ご入居者の情報の把握に努めている。毎週木曜日をレクリエーション等を行う日とし、楽しみごとを一つでも増やす努力をしている。また、ルールを定めることで、タバコ等嗜好品も楽しんで頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症や猛暑の影響により、ご入居者の下肢筋力の低下がうかがえ日常的な外出支援が思うように入行えていない状態であるが、日々の日光浴、ご家族との外出、イベントによる外出は継続して行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が可能なご入居者には、ご自身で財布を管理して頂き支払いを行ってもらっている。自己管理が困難な方でも、買いたい物を選び支払いに関する支援をする事で不安を取り除き、自信に繋げている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話を希望される方には、必要場合は職員が事前に確認をとり、先方と調整しながら支援をしている。また認知症の進行がみられる方にはや不安軽減のため、やむを得ず回線の繋がっていない電話を渡し対応を行うこともある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者のニーズによってフロアー照明の増設を行ったり、ご入居者、職員手作りの季節感のある掲示物や、ご家族了解の上で写真を飾ったりしている。外の花壇には四季折々の花などを、ご入居者が中心となって植えている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには共用のソファや椅子があり、ご入居者が思い思いの場所で過ごされている。またニーズに合わせて柔軟な対応を心掛けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフからの提案により、近隣の花屋と連携し生花をお値打ちに提供して頂き、月1~2回ご入居者がフラワーアレンジを行い居室や共用空間に飾っていただくことで季節感や湿度の確保、居心地の良い空間づくりにつなげている。今後もスタッフからの一方的な提供ではなく、ご入居者が自ら住環境を整えることができる支援をしていきたい。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部に面した扉が多く、ご入居者が自室やトイレの場所を認識しにくいいため、目線の高さに表示をしたり、室名札にご入居者の写真を入れたりしている。また、ご入居者の日常生活の自立のために、手すりの増設も行った。		

(別紙4(2))

事業所名: 守山ケアハートガーデン グループホームつづみの丘

## 目標達成計画

作成日: 2010年 12月 14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(全項)	本人本位のケアの提供に努めているが、時としてケア者本位に考えてしまうことがある。本人本位とは何か? その人らしさとは何か? を見つめ直す必要がある。	現在、積極的な導入を進めているセンター方式を今後も幅広く取り入れ、ご入居者の想いを把握し生き活きとした笑顔が出せるグループホームを目指す。	1. センター方式を使用し、ご入居者の個々のニーズを把握しケアに活かす。 2. ご入居者と会話する機会を増やし、全ご入居者が発語出来る(声を出せる)環境をつくる。 3. できない理由探しではなく、「できるために何をすれば良いか?」を合言葉とする。	12ヶ月
2	48 49	感染症対策などの事情により、外出の機会が著しく減少している。運動の機会が減り、ご入居者の下肢筋力の低下につながっている。	人混みへの外出では無く、まずは近隣への散歩の機会を増やすこと、おやつ前の定時の体操を確実に行うこと、で下肢筋力の低下を防ぐ。	1. おやつ前(10時、15時)に、ご入居者の状態に合った体操を行う。(ラジオ体操・指体操・嚙下体操など) 2. 気候の良い日は、近隣への散歩を積極的に支援する。 3. 年間計画に基づき、普段出掛けられない場所への後乗を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。